

日本科学者会議  
京都支部ニュース 8月号 No.388

2016年8月12日発行

〒604-0931 京都市中京区二条通寺町東入榎木町95-3 延寿堂南館3階

Tel/Fax : 075-256-3132

E-mail : jsa-kbranch3132@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL : <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/jsa-k/>

ゆうちょ銀行振替口座 加入者名: 日本科学者会議京都支部 口座番号: 01050-6-18166

ゆうちょ銀行総合口座 加入者名: 日本科学者会議京都支部 口座番号: 14480-2800181

上記総合口座を他金融機関からの会費振り込みの受取口座として利用される場合は以下の内容を指定して下さい。

店名: 四四八(読み ヨンヨンハチ) 店番: 448 預金種目: 普通預金 口座番号: 0280018

目次

- ◆ 「夏の学校 in 京都」カンパのお願い.....2
- ◆ JSA 第21回総合学術研究集会への参加の呼びかけ .....2
- ◆ 21 総学での保育室開設について .....3
- 関西技術者研究者懇談会 7月例会(7/10)「731ツアー」報告 .....3
- 『日本の科学者』読書会 7月例会(7/21)「ひきこもり研究は今」報告.....4
- ◆ JSA 近畿地区会議(7/23)の報告 .....6
- 8月・9月の支部関連行事の案内 .....7
  - ・『日本の科学者』読書会8月例会(8/18)
  - ・関西技術者研究者懇談会・夏の合宿(8/27-28)
  - ・H.Wallon 研究会(8/28)
  - ・JSA第21回総合学術研究集会(9/2-4)
  - ・「ひきこもり人と歩む」交流会(9/4)
- ★ 寄稿: 憲法9条と自衛隊の将来, 夢のまた夢の展望を探る(富田道男).....8
- ◆ 支部幹事会・ワーキング会議だより .....9
- ◆ 近畿の催し物案内: 「JSA 近畿 No.88.40」.....11

若手活動支援のためのカンパをお願いします。

振込用紙を今月号に同封しました。詳細は2ページを参照願います。

21 総学に地元支部会員として積極的に参加願います。

支部ニュース7月号に3rd Circular と参加費振込用紙を同封しました。参加申し込みは8月19日(金)までです。(2ページ参照)

支部事務所は壁と床の張り替え工事のため、8月19日から29日まで利用不能となります。

## 「JSA 夏の学校 2016 in 京都」カンパのお願い

今年も「JSA 夏の学校」が開催されます。

「夏の学校」とは、全国の大学院生をはじめとした若手研究者を集める交流と学習の場として毎年開催しております。今年は9月2～4日にかけて開催されるJSA第21回総合学術研究集会(21総学)に合わせて「夏の学校2016 in 京都」を開催します。今年の「夏の学校」は、「研究と社会運動の両立を目指して」というテーマを掲げて企画の準備を進めております。

近年、大学院生をめぐる環境が年々厳しさを増してきております。個人主義を誘発するような過度な業績主義志向や奨学金問題に代表されるような経済的な問題が身近な問題として横たわっています。そのような状況において、JSAの活動や社会運動に関わる大学院生は、自身の研究の進展と社会運動との両立に悩んだり、苦しんだりしながら、大学院生生活を送らざるを得ないというのが現状だと思います。

今回の「夏の学校」では、そうした悩みを抱える大学院生が研究者を目指しながら、JSAの活動や社会運動に関わることの意義について考え、意見交換する場として企画しております。(詳細は21総学の3rd or 4th Circularを参照願います。)

つきましては、全国から一人でも多くの大学院生が「夏の学校」に参加できますようカンパのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(一口1,000円で何口でも結構です。同封の振込用紙でお願いします。)

(文責：院生幹事)

## JSA 第21回総合学術研究集会への参加の呼びかけ

21総学開催が目前に迫ってきました。9月2日(金)～4日(日)に、龍谷大学深草学舎で開催されます。事前登録はお済みでしょうか。8月19日(金)が締め切りです。早めの登録をお願いします。

いま時代の大きな転換期にあります。平和憲法の危機とも言われます。軍学共同が現実のこととなりました。原発・地球環境問題も待たなしです。このなかで、あたらしい市民運動のうねりが起きています。科学者会議への期待も高まっています。

今回の総学には180以上の報告・講演が用意されています。全国から会員が参加します。京都の会員のみなさんの積極的な参加を呼びかけます。総学で大いに語り合しましょう。

宗川 吉汪

**2 1 総学では臨時保育室を設けます！**  
**利用希望の方は 19 日までにお申し込みください！**  
**保育ボランティアとしてのご協力もお願いします！**

**(1) 臨時保育室の開設**

21 総学では9月2～4日のすべての開催時間帯に臨時保育室を開設します(会場建物内 B108 室を予定)。

とくに、4日(日)午前の女性研究者技術者分科会は、「科学・学問技術をめぐるジェンダー問題」を主テーマに、サブテーマを「女性研究者のライフコース：出産・子育てと研究遂行の葛藤」として現職の女性研究者4人がパネル発言に立ちます。ぜひ、若手・院生・現職世代の参加を期待したく、そのためにも保育の必要性は大きいと考えます。

保育室の利用については、準備の都合上、事前申し込みを19日まで受け付けています。身近におられる若手研究者層へのお誘いをお願いします。

**(2) 「子ども見守り隊」「子ども遊ばせ隊」への登録お願い**

臨時保育室の保育担当者については、保育士OBや学生アルバイトで確保できるよう、準備中ですが、一般教室を利用した保育という条件もあり、安全確保のためには、十分な人手が必要です。会員のみなさまのお力をお借りしたいと考えます。

「子ども見守り隊」：室内での安全見守り；出入口での目配り；子どもが一般トイレを利用する際の付き添い(男女別)……。

「子ども遊ばせ隊」：おもちゃ遊び、絵本読み、お絵描き、折り紙、紙細工などの相手；手品とかやってみせたい方……。男女を問わず、ご登録をお待ちします。

登録先：京都支部 E-mail：[jsa-kbranch3132@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:jsa-kbranch3132@mbox.kyoto-inet.or.jp)

以上、21 総学実行委員会事務局・京都支部ワーキング会議の協議によるお知らせです。

(文責：清水民子)

**関西技術者研究者懇談会 7 月例会 (7/10)**

**7 3 1 ツアーに参加して**

日時：2016 年 7 月 10 日 (日) 14 時～17 時

場所：JSA 大阪事務所

参加者：10 名

「7 3 1 ツアー」に参加して

山口進次氏

2016 年 5 月 3 日より 4 泊 5 日の日程で「細菌戦部隊など戦争遺跡を巡る旅」に参加した。

このツアーは戦医研と新日本医師協会の共催によるもので、第 57 回日本社会医学会総会

「戦争と科学」シンポジウムのプレ企画として開催されたものである。

主な訪問先は中国東北部、731 部隊の基地があったハルピン市と、柳条湖事件のあった瀋陽市である。

1938～1939年ハルピン市平房地区に、日本の関東軍は細菌戦の研究基地を建設し、国際法に違反して細菌兵器の研究製造、人体実験、生体解剖などを行った。石井四郎軍医中将以下731部隊の重要人物は、ソ連軍が攻めてくることをいち早く察知すると、施設を徹底的に破壊し証拠隠滅を図った。その時収容されていた捕虜たちも、口封じのため全員が殺された。ここでの犠牲者は3,000人を上回るといわれている。

この遺跡跡に昨年、戦後70年を記念して「侵華日軍731部隊罪行陳列館」が新設された。その目的は、旧日本軍が中国で行った細菌戦の実態を明らかにし、後世に伝えることで二度とこのような過ちを繰り返さないよう願って建てられたものである。

わが国ではこの侵略戦争の反省はあいまいであり、特に731部隊による蛮行は実質免罪されており、関係者は医学界に復帰、かん口令を敷いて罪を暴かれないよう防衛している。そのためミドリ十字の薬害エイズ事件のような犯罪も起こしている。(ミドリ十字の会長や役員に731部隊の関係者がなっていた)

瀋陽市の9.18祈念館には、元首相の岸信介の写真が他の戦犯とともに展示されていた。

なぜ戦犯が首相になれたのか・・・

中国をはじめ近隣諸国と友好関係を築くには、まず侵略戦争の反省がなければならぬ。

### 討論

★ドイツの元大統領ヴァイツェッカー氏は「過去に目を閉ざす者は、結局のところ現在においてもものが見えなくなります。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすいのです」と語っている。

★帝銀事件は元731部隊の仕業ではないかといわれている。

★「731遺跡」は現在ユネスコ世界遺産に申請中。

★歌手、加藤登紀子はハルピン生まれ、幼少期をハルピンで過ごしていた。母親の手記によると、731部隊がこのような残虐なことをしているとは夢にも知らず、ロシア人たちとも仲良く暮らしていた。

### これからの日程

8月27日(土)～28日(日)

テーマ：自由課題 担当：参加者全員

場所：滋賀県高島市

(文責：山口進次)

## 『日本の科学者』読書会7月例会(7/21)報告

### 6月号特集「ひきこもり研究は今」

標記例会が7月21日午後3時より支部事務所で開かれた。参加者6名。6月号特集より以下の3篇の論文が取り上げられた。

漆葉成彦「ひきこもりの人びと—精神科医の経験から」(報告者・福島知子)

漆葉成彦氏は、精神科医としてひきこもり

の当事者・家族の相談支援に携わってきた。その実践から、ひきこもり問題を医療の対象とすることの意義を中心に述べた論文である。

ひきこもり支援の基本的考え方は、①単一の疾患や障害の概念ではない、②ひきこもりの背景は多彩である、③当事者だけの問題で

はない、④問題の本質は、ひきこもっている当事者と環境との間に生じる悪循環であるとし、心理学的、医学的、社会学的立場からの捉え方があり、様々な観点を統合した立場からの支援、多機関連携は当然であるが、支援者自身の背景や所属によって、いずれかの視点に軸足を置いた支援にならざるをえない場合が多いと述べる。

ひきこもりの問題を安易に医療化することは、ひきこもっている当事者の問題として、矮小化することにつながりかねないこと。例えば、ひきこもりの背景要因に、多くの当事者に軽度の発達障害が存在するが、発達障害の側面が強調されると、支援がその診断（発達障害という）のみに偏り、心理学的視点や社会学的視点が軽視されがちであるとする。

しかし、医療の視点が必要であることは否定できない。それは、①一般精神科医療的対応が可能になる、②身体症状や精神症状への対症療法が、関係形成への手段となる、③家族の問題理解に役立つ、④支援目標の設定に役立つことであると述べる。

実践から得られた事例（7事例）の報告から、精神科医療の枠組みを手段として用いることで、問題解決が進む事例が数多くあり、精神科医療機関が重要な位置を占めることは間違いないと述べる。

一方、医療の意味と限界を知っておくことと、他の社会資源との緊密な連携を心がけることが重要であると結んでいる。

本論文は『精神科医療』に限っての言及であり、精神保健福祉領域を含んだ実践展開をしてほしかった。

**原 未来「ひきこもり周縁の若者たちのフリースペースをつくる」**（報告者・清水民子）

「自立」と「就労」を方向づける行政の「ひ

きこもり」支援政策に対して、本論文に紹介された「居場所づくり」の実践は、「不登校支援」「学習支援（生活保護家庭児への）」の系譜につらなり、「発達」と「育ち」の視点に立っている。職場でのいじめにより、退職した青年の「人とのかわり回避」から仲間への語りの体験、ミーティング参加、就労研修参加の決意、フリースペースを支えとしながらの就労までのエピソードを主事例としつつ、フリースペースは「セルフ・ヘルプグループ」の機能と「臨床的介入」（専門スタッフの役割）の機能の両面をもつべきだと論じている。

**藤本文朗「ひきこもりは日本特有の現象か」**（報告者・藤本文朗）

福島知子氏より漆葉成彦「ひきこもりの人びとー精神科医の経験から」の論文について紹介があり、厚労省の定義、事例や精神障害の関係についてふれられ、ひきこもりは「現象概念」であり、多様である。また、国際的に「障害」を生活機能分類（LCF）の観点からみる方向とのべられた。

清水民子氏からは原 未来「ひきこもり周縁の若者たちのフリースペースをつくる」の論文の紹介があり、“周縁の若者たち”の実践が生々とつづられていると述べられた。

藤本より、自分の論文「ひきこもりは日本特有の現象か」について紹介。8月号の読者の声では好評だが、個人的に批判もあるので不勉強を反省している。この分野の日本の研究者・斉藤 環「ひきこもりの文明論」（ちくま学芸文集、2003年）によくまとめられているが、藤本は、ひきこもりのルーツは日本、韓国での急速な近代化にあると述べた。さらに、討論では学校教育（個を大切にした）、社会教育（再教育）についても論じられた。

## 2016 年度 JSA 近畿地区会議 (7/23) の報告

7月23日(土)13:00~16:00にJSA大阪支部事務局にて2016年度近畿地区会議が行われました。大阪、兵庫、滋賀、京都の各支部からと全国常任幹事2名の参加がありました。

最初に52期(2016年度)第2回全国常任幹事会の報告が河野近畿地区担当常任幹事からありました。報告を交えて討論を行いました。

1. JSAの再建のための3つのワーキングが立ち上がり、第1WG(竹森座長:組織改革, 会則, あり方), 第2WG(松田座長:研究基金, 財政, 会計処理), 第3WG(橋本座長:専従職員問題)の各課題について、12月17日(土)~18日(日)の第3回全国常任幹事会で検討報告がなされます。

2. JSAの会員減少も問題となっております。20年前の1996年は8,000人であったのが、2016年6月時点で4,000人を切っております。近畿の各支部でも減少傾向にあります。京都支部は、近年は微減となっておりますが、退職者がかなりの割合を占めている現状では、若手や現職会員の会員拡大が必要です。

3. 各支部の会員名簿を全国に提出を求めることが全国常任幹事会で議論されたことが報告されました。大阪支部や兵庫支部では、会合や講演会、研究会の際に参加した会員に、現在の専門分野や所属などについて聞き取りを行っているとのこと。京都支部でも会員名簿の確認を行っていることを報告しまし

た。地区会議の議論では、各支部で会員名簿を確認することは、各会員の活動状況を掴む上で重要なことであるが、各支部の名簿を全国事務局に提供することは、全国の昨今の状況では賛同できないという意見が多数でした。全国や他地区での研究活動に必要な分野の人を探して欲しいのであれば、全国や当該地区・支部がその都度各支部に問い合わせをすることも十分ではないかという意見も出ました。

4. 全国、地区、支部それぞれの役割については、全国---全国規模の研究組織や社会活動、支部---日常的な人のつながり、地域での諸活動、地区---地区レベルでの共通課題の解決や、情報交換 があることが確認されました。

5. 地区会議の討論では、JSAは研究や就職に役立つかということが議論になりました。環境分野などではJSAでの活動が役に立っており、JSAの会員であったがために就職に結びついた例もあるそうです。JSAの持ち味は、専門を超えた横断的な研究活動が可能なことですので、その利点を活用した「総合研究活動」が重要となります。21総学を機に、さらなる研究活動の活性化が求められます。

今年度の近畿地区シンポは大阪で12月上旬開催で日程調整をしております。テーマは「軍学共同研究」です。詳細は決まり次第お知らせします。

(文責・左近拓男)

## 8月・9月の支部関連行事の案内（末尾の「JSA 近畿 No. 88. 40」も参照）

### 1. 8月読書会

日時：2016年8月18日（木）15：00～17：30

場所：キャンパスプラザ京都6F龍谷大サテライト（いつもと場所が違います。）

内容：『日本の科学者』7月号特集「軍学共同の新展開」

担当：宗川吉汪：河村論文「広まる軍学共同とその背後にあるもの」

菅原健二：豊島論文「科学の軍事利用と科学者の抵抗」

鈴木博之：西川論文「軍産複合体と軍事技術開発」

### 2. 第4回支部幹事会

日時：8月18日（木）18：00～20：00

場所：キャンパスプラザ京都6F龍谷大サテライト

### 3. 関西懇（関西技術者研究者懇談会）夏の合宿

日時：8月27日（土）～28日（日）

テーマ：参加者の各自発表

場所：滋賀県高島市マキノ町

詳細、申し込み：山口進次 Email: qpkxj478@yahoo.co.jp

### 4. H. Wallon 研究会

日時：8月28日（日）14：00～

場所：人間発達研究所（滋賀県大津市，JR大津駅から徒歩5分） Tel: 077-524-9387

報告：藤本文朗「ランジュバン・ワロン計画（教育）」を読む

問い合わせ：藤本文朗 <Tel: 070-5675-3408>

### 5. JSA第21回総合学術研究集会

基本テーマ：科学と社会との緊張関係—現代社会が求める科学者の社会的責任—

日時：9月2日（金）～4日（日）

場所：龍谷大学深草学舎

### 6. 「ひきこもり人と歩む」交流会

日時：9月4日（日）14：00～

場所：東山やすらぎふれあい会館（京都市バス，東山五条下車）

内容：漆葉成彦先生（佛教大学）のお話

資料代：500円

主催：JSA高齢者障害者人権保障研究会

問い合わせ：藤本文朗 <Tel: 070-5675-3408>

寄稿：

## 憲法9条と自衛隊の将来、夢のまた夢の展望を探る

富田道男

### 1. はじめに

日本がアメリカ合衆国に宣戦布告をして太平洋戦争に突入したのは、1941（昭16）年12月のことであった。そして4年後の1945（昭20）年8月14日、日本国政府は、日本の無条件降伏を求める米・英・華3国によるポツダム宣言（1945.7.26）の受け入れを米・英・ソ連・支那4国に通告し（『資料集 20世紀の戦争と平和』、新日本出版2000）、翌9月2日、日本政府は降伏文書に署名して第二次世界大戦は終結した。

終結の2か月ほど前の6月23日には、住民を巻き込んだ沖縄戦が、20万人の戦死者のうち約半数が住民という悲惨な状況で終わり、ポツダム宣言受託8日前の8月6日には広島に原爆が投下され、3日後の9日には長崎にも原爆が投下された。7月末までにポツダム宣言受託を通告していればなんとか原爆投下を避けられたのでは、との思いが断ち切れない。沖縄戦で敗れた後も竹やりで本土決戦・玉砕を主張したと言われる軍部の故であろうか、明治以降の富国強兵策とその後ろ盾となった皇軍思想の為せる業であろう。いま考えても狂気の沙汰である。

先日行われた参議院選挙では、現憲法を変えようという政党が両院で三分の二を占めるに至り、政党の改憲意図がそれぞれ異なっているとは言え、憲法の議論が国会に登場する可能性が現実の問題となった。特に平和憲法を象徴する第9条をめぐる様々な意見が、民主勢力と言われる側からも聞こえてくる。「自

衛のための軍隊は戦力ではない」「軍隊を持たない近代国家は在りうるのか」など、戦後の苦し紛れの言い訳とはいえ、軍隊と戦力を区別する考えである。違憲と言われながらも存在する自衛隊を将来に向けて解消し、憲法第9条を変えずに残す方策を考えなければならない。

憲法9条2項には「陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。」と明記されているが、自衛隊の現装備は明らかに「陸海空軍の戦力」である。戦車を持ち、イージス艦という軍艦を保持し、ジェット戦闘機を日本の各地に配備している。しかし他方では、わが国における災害のたびに自衛隊が救援活動に加わり、大層活躍して被害地住民から感謝されていることは周知のところである。

現在、自衛隊員は約240,000人とされている。内訳は、陸上自衛隊員が最も多く約148,000人<sup>1)</sup>で、海上自衛隊員が約44,000人<sup>2)</sup>、のこりが航空自衛隊員<sup>3)</sup>である。自衛隊廃止の場合でもこれらの隊員の再就職先を確保しなければならない。

そこでこの自衛隊を将来に向けて、自然災害救助隊に編成替えするというのが、当面の将来像として適切な処置と考えられる。これから先も自然災害は、世界で頻発すると考えられるからである。その際、国際関係の整理として、これが最も難物であろうが「日米安全保障条約」の類は、解消または解消計画の存在する状況にしておくことが前提である。

## 2. 自衛隊の改組・装備品の変更案

(ア) 自衛隊員は原則として継続して、災害復旧要員として採用する。海上自衛隊の場合、一部海上保安庁に移管し、海に囲まれた日本の海上保安のための各種業務の強化を図る。

(イ) 陸上・海上・航空の各自衛隊の装備は、それぞれ災害復旧・救援用装備に変更してゆく。

戦車等は、災害復旧・整備用に建設用重機に変更し、自衛隊艦船は、大規模病院施設を備えた輸送船のみに限定し、他種の艦船は廃止する。航空自衛隊機は、空からの救援を目的としたヘリコプター中心の編成に改めていく。また一部を「ドクターヘリ」体制に参入すべく編成替えして、へき地や過疎地その他一般の医療体制強化に資する。

## 3. 国際貢献

引用サイト；

- 1) 陸上自衛隊；(<http://www.mod.go.jp/gsd/faq/about.html> )
- 2) 海上自衛隊；(<http://www.mod.go.jp/msdf/formal/recruit/pdf/01.pdf>)
- 3) 航空自衛隊；(平成 25 年 3 月現在)  
(<http://www.mod.go.jp/asdf/about/organization/kuujitowa/index.html>)

## ◆◆◆◆ 支部幹事会・ワーキング会議だより ◆◆◆◆

第 51 期 (2016 年 5 月～2017 年 4 月) 支部第 3 回幹事会 (7/21) および第 3 回ワーキング会議 (8/5) の報告

### 1. 新入会員

檜山勝彦さん (京大農学部, 足立研究室研究生) が 8 月より入会。

専門分野 (地理学, 農学), 所属学会 (日本リズム協会, 文化人類学会), 研究テーマ (韓国農学史, 「定期市」論)

### 2. 会員の現況 (2016年8月2日)

自衛隊の一部を世界, 特にアジアを中心とする自然災害救助・支援組織に編成替えして, アジア地域に頻発する自然災害地域の要請に応じて, 復旧・救援活動に参加し, 国際貢献に資する。

現存する憲法違反の自衛隊をどうするか  
の展望を示さなければ, 改憲論議の中で憲法 9 条を変えずに残すことは困難のように思う。

この提案は, 馬鹿げていると見えるかもしれない。しかし, 「北朝鮮が攻めて来たらどうする」「中国の脅威をどうする」などという考えほどの馬鹿さ加減ではないように思う。日本を脅かすのは北朝鮮や中国だけではない。日本では, いま沖縄が実質「アメリカの占領下にある」ような状況であることを忘れてはいけない。

自衛隊の問題は, 私たちがいま考えなくてはならないときであると思う。

一般会員238, 家族割り特別会費会員4, 若手会員7, 若手特別会費会員19  
会員合計268, 読者3

### 3. 会費納入状況 (7月27日現在)

16年度会費納入者: 一般 134/238, 家族割り1/4, 若手 0/6, 若手特別 2/19

15年度会費未納者: 一般 15, 若手 1, 若手特別 7

14年度会費未納者: 一般 1, 若手特別 2

### 4. 支部名簿の記載事項についての確認

現役会員 (含む若手26人) 133人, 退職会員 135人

平均年齢  $(133 \times 47 + 135 \times 70) \div 268 = 58.6$ 歳

女性会員 現役10人+退職11人

### 5. 21総学の準備

・京都支部ポスターについて, 年間の活動報告と支部ニュースを展示

・スケジュールの確認

第2回実行委員会	6月19日 (日) スミ
コーディネータへの予稿集原稿提出期限	6月27日 (月) スミ
実行委員会への予稿集原稿提出期限	7月 1日 (金) スミ
3rd circular 発送	7月11日 (月) 最終プログラム スミ
事前参加申し込み期限	8月19日 (金) に延期
21総学開会	9月 2日 (金)

・保育室の開設について (清水さんと福島さんが担当)

### 6. 支部事務所の工事

8月19日~8月29日, 支部事務所の壁クロス張替と床張替工事が行われる.

この間, 事務所の使用はできません.

### 7. 7月~8月の支部関連行事 (支部ニュース7月号発行 (7/12) 以降)

7月21日 (木) 7月読書会@京都支部事務所

7月21日 (木) 第3回支部幹事会@京都支部事務所

7月21日 (木) 原発ゼロ左京の会第22回連続学習会

7月23日 (土) 近畿地区会議

8月 5日 (金) 第3回ワーキング会議

(文責: 宗川・左近)

## JSA の関連する近畿地区の催し

## ◆京都支部 8月読書会

日時：8月18日(木) 15:00~17:30  
場所：キャンパスプラザ京都 6F 龍谷大サ  
テライト (いつもと場所が違います。)  
内容：『日本の科学者』7月号特集  
「軍学共同の新展開」  
担当：宗川吉汪 (河村論文), 菅原健二 (豊  
島論文), 鈴木博之 (西川論文)

## ◆関西懇・夏の合宿

日時：8月27日(土) ~28日(日)  
テーマ：参加者の各自発表  
場所：滋賀県高島市マキノ町  
詳細、申し込み：山口進次  
eメール：[gpkxj478@yahoo.co.jp](mailto:gpkxj478@yahoo.co.jp)

## ◆H.Wallon 研究会

日時：8月28日(日) 14:00~  
場所：人間発達研究所 (滋賀県大津市, JR  
大津駅から徒歩5分) Tel:077-524-9387  
報告：藤本文朗「ランジュバン・ワロン計  
画(教育)」を読む  
問い合わせ：藤本文朗 <Tel:070-5675-3408>

## ◆「ひきこもり人と歩む」交流会

日時：9月4日(日) 14:00~  
場所：東山やすらぎふれあい会館  
(京都市バス, 東山五条下車)  
内容：漆葉成彦先生(仏教大学)のお話  
資料代：500円  
主催：JSA 高齢者障害者人権保障研究会  
問い合わせ：藤本文朗 <Tel:070-5675-3408>

## ◆講演会「報道の自由とは何か」

講師：藤原節男氏(元原子力安全基盤機構)  
岸井成格氏(毎日新聞特別編集委員)  
日時：9月13日(火) 13:30~17:00  
場所：大阪大学会館(豊中キャンパス)

## ◆第100回 北天満サイエンスカフェ

大阪マラソン応援企画  
「子どもの発育発達と運動：発育期の持久的  
トレーニングについて」  
日時：9月18日(日) 16:00~18:00  
話題提供：渡邊 完児氏(武庫川女子大学)  
場所：天五中崎通商店街(天六, 中崎町)

## ◆第21回動物園前サイエンスカフェ

「地震動予測を役立てる(仮題)」  
日時：10月15日(土) 14:00~16:00  
話題提供：長沢 啓行氏  
(若狭ネット資料室長)  
場所：動物園前1番街イベントスペース  
(動物園前, 新今宮)

◆第101回 北天満サイエンスカフェ  
7周年+101回記念

「リニア新幹線は何を運んでくるのか」  
日時：10月23日(日) 14:00~16:00  
話題提供：西川 榮一氏  
(神戸大学名誉教授)  
場所：天五中崎通商店街(天六, 中崎町)

「JSA 近畿」は原則として毎週発行。会員が個人や小グループで企画する催し案内も掲載します。記事掲載をご希望の方は、各支部事務局までお知らせください。今期の編集は兵庫支部担当です。